

眼 科

《概要》

3月末で土師正也医師が退職し、田尻健介医師、大槻紘平医師の2名で診療を行っている。

診療疾患は白内障、緑内障、糖尿病網膜症などを中心に、眼科一般を診療しており、大阪府立泉州救命救急センターへの診察も行っている。

手術は例年通り、白内障手術が多く、大多数の症例では小切開創から眼内操作を行ない、インジェクターを用いて眼内レンズを挿入する術式を採用している。手術時間が短縮し、術後乱視が軽減することで術後視力の向上に効果を発揮している。白内障手術患者はクリニカルパスにしたがって、入院期間は片眼手術の場合は4～5日間、両眼手術の場合は8日間ではほぼ全例予定通りの退院となっている。比較的若年で術後の通院に支障がない患者については、全身状態も考慮したうえで日帰りで手術も行っている。

また糖尿病網膜症の症例は従来通りに多く、蛍光眼底造影検査や網膜光凝固術を多数施行している。糖尿病網膜症の進行例や、網膜剥離などは硝子体手術で対応している。

泉州広域母子医療センターの始動に伴い、NICUでは未熟児網膜症症例が増加している。未熟児網膜症の進行例には網膜光凝固治療で対応している。

《業績》

(1) 学会研究会報告 (2009. 4～2010. 3)

番号	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1	増殖糖尿病網膜症に硝子体手術をしたKlinefelter 症候群の1例	田尻健介 大槻紘平 中泉敦子 佐藤孝樹 石崎英介 南 政宏 植木麻理 池田恒彦	第 15 回日本糖尿病眼学会	2009. 12. 4-6
2	腎硬化症に併発した網膜静脈分枝閉塞症に対して硝子体手術を施行した1例	大槻紘平 田尻健介 池田恒彦	第 33 回日本眼科手術学会総会	2010. 1. 22-24